

韓国の平昌で行われました冬季オリンピックも幕を閉じました。勝つてうれし泣き、負けて悔し涙、瞬間の表情に偽りはありません。見ている人々に感銘を与えます。怪我で心配されましたが見事優勝されました羽生結弦選手、パシエート種目で一糸乱れずに滑り、優勝されました日本チームの美しさが目に焼き付いています。又二十五日の東京マラソンで設楽悠太選手が二時間六分十一秒で走り、十六年ぶり日本記録を更新しました。当に、無念の心境で果しえた結果でしょう。無念は残念の意、のみにあらず。大森曹玄師はおもひそうげん無念とは当面する対象に全自己を投げ入れ、全身心を挙げて全力投球し、完全燃焼することである」と。多くのアスリートが感動をくれました。大森曹玄師は又、面白い事を言つて見えます。私の考えるところによれば、気は間とともに東洋における芸道の成否を決する重大な要素であるが、さて、となると雲をつかむよう具体的それが何であるかは解明されず、容易に掴みえない憾みがある」と。アスリートは媒体との気が合ったか合わなかったかで、気合が符合した者が優勝できたものと考えられます。

貝原益軒は およそ人が存在しうるのは天地がこれを生ぜしめたからである。人の身は父母を本とし、天地を初めとす。天地父母の恵をうけて生まれ、又、養はれたる吾が身なれば、わが私物のにあらず」と。それなれば、先祖から継承する気はあるのか、ないのか。と問われれば、人間として生を受けた者に魂を授与した者は誰一人いないとなれば、気魂の継承があると言わねばなるまい。それと共に、仏教では気根が重要です。佛の教えを修行するために必要な素質と能力。気は色々な物と結び付き、人間の能力を高めたり、弱らせたりします。要するに運氣が上がったり、下がったりすることです。例えば元氣であっても邪氣に侵され病氣になってしまう。正機を頂き、正気を持続する事です。災難を避ける為には気丈に振舞つて見せる事も必要です。気を生かす最高は佛の靈氣を受けて靈感を掴む。求める先はこれにつきましよう。

中江藤樹は 大の心というものは、知識ある者も愚かな者も、私心を種として発する自慢の心のないものは少ない。この慢心が明德曇りのない特性を暗くし、災いを招く曲者であつて、万事の苦しみもまた大部分はこれから起こるのである」と。私心は得てして思ひ上がりに繋がり、慢心に成りやすいものです。一回の事故で信用を落としてしまいます。自己の研鑽を積むのも大事ですが耳を貸すのも必要な時があるのです。西田幾多郎博士が言う 物となつて見、物となつて考え、物となつて行ふ。即ち、経にも佛が我か、我が佛かとあり。心が身体を支配していると言うなら、待つことも大事です。突き進むばかりが能ではありません。時には自分の時を止める勇氣も必要です。山鹿素行は 正しい公道の道にもつぱら進むというのが義であつて、私的な立場を守つて己の欲望を満足させようとするのは利なのである」と。營利の為にばかりに目を向けると野獣の境地に堕ち、人間としての尊厳を維持できません。荻生徂徠は 慎んで天命に従ふべきである。それが人間の生き方の根本である」と。何人たりとも天命に背くことはできません。

彼岸供養は一八日です。

三十年三月一日

善書堂主人院油掛地蔵尊